



国際経済交流財団
グローバルリスク シンポジウム 2017

グローバルな地政学的リスクの 現状と見通し

2017年7月11日(火)

於: 国際文化会館

KOMATSU RESEARCH & ADVISORY

代表 小松 啓一郎

本日の前提

- 国際情勢に影響する各種の要因を日本や米国、ロシアなどに有利であると不利であるとかかわらず、まず事実として見つめたい。
- そのため、「親米」や「反米」、「親露」や「反露」という古風な見方も避けたい。
- 本日の情報の基本的な扱いについては、国際的に知られるチャタムハウス・ルールでお願いします。

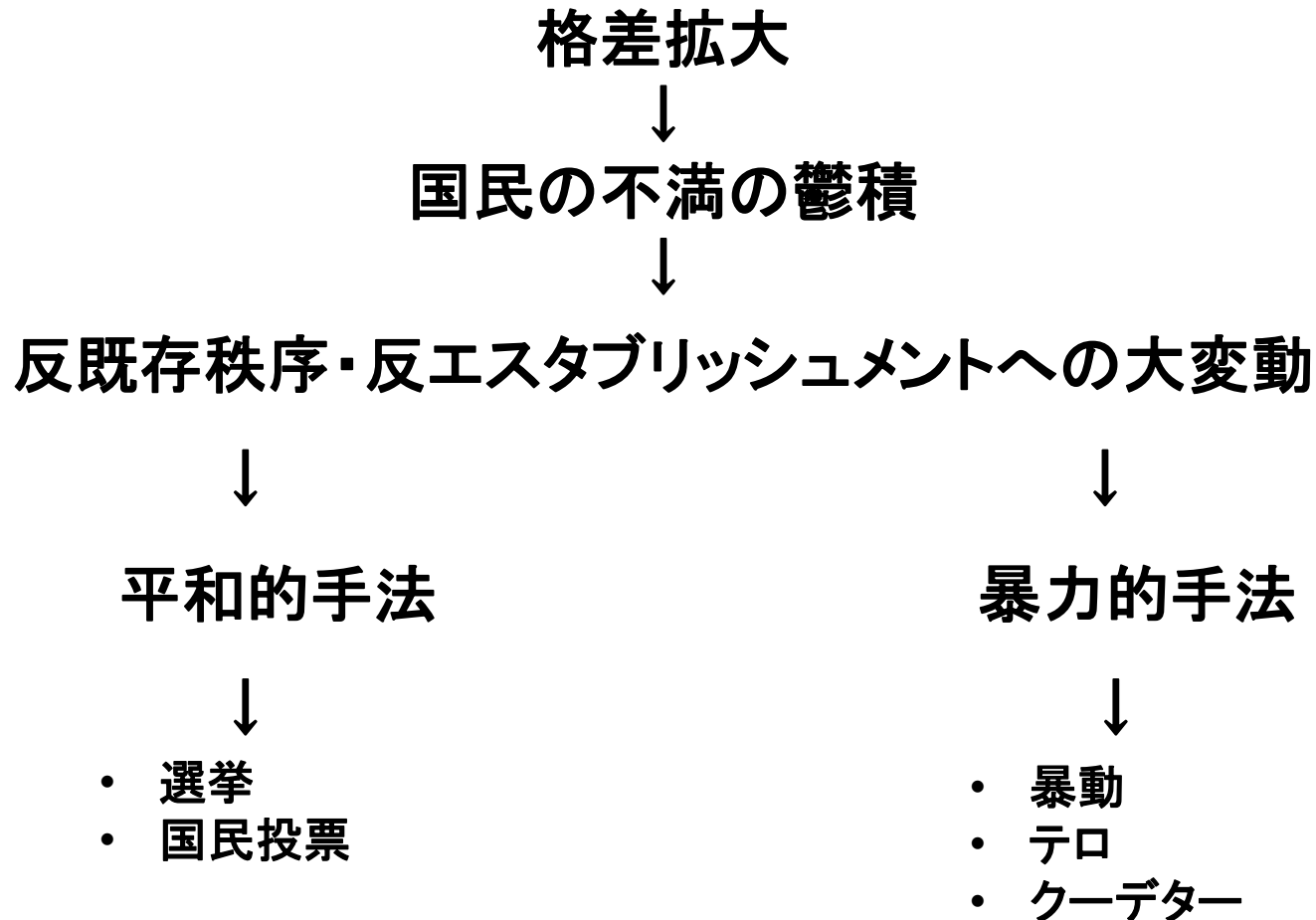
「ニューノーマル」の時代

- 歴史の大転換期:「想定外」が“New Normal”
- 戦後ブレトンウッズ・スミソニアン体制⇒冷戦終結で終焉
- 9・11テロ⇒対テロ戦争⇒米国一極体制の揺らぎ
- グローバル・スタンダード(=欧米基準)から「新世界秩序」へ
- 向かうのは多極化？それとも無極化？
- 国際情勢の共時性

国際情勢の共時性

— 反格差運動の広まり —

格差拡大を背景とした 「反既存秩序」の動き



国際情勢激変への動き

反既存秩序の流れ

| | |
|-----------|---|
| 2008年 | 世界金融危機 |
| 2010年12月～ | 「アラブの春」 |
| 2011年 | 世界的な「反格差運動」 |
| 2014年6月 | 「イスラム国」がモスルを占領 (英仏エリートが決めたシリア・イラク間国境の否定) |
| 2014年9月 | スコットランドの独立を問う国民投票で接戦 |
| 2016年6月 | 英国の国民投票でEU離脱の決定 |
| 2016年11月 | 米国大統領選挙 ドナルド・トランプ氏勝利 |
| 2017年5月 | 仏大統領選挙 マクロン氏勝利 |
| 2017年6月 | 英国総選挙 保守党の過半数割れ |

マダガスカル (2009年から2014年1月までクーデター政権下)



↑
(倉庫炎上)

← (ショッピング・
センター炎上)



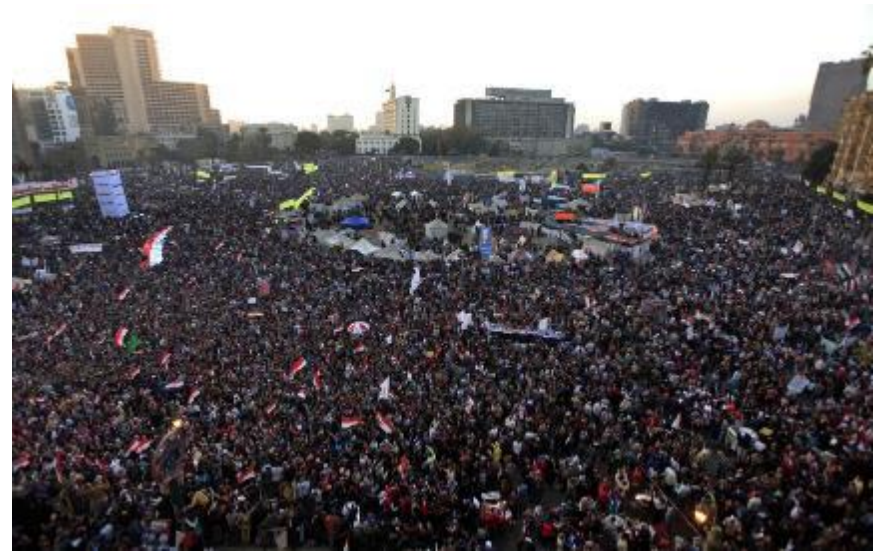
2009年1月26日 小松 啓一郎撮影

「アラブの春」 (2010年12月～2011年)

チュニジア→エジプト→イエメン→リビア
→シリア(アサド・ジュニア政権存続中)



チュニジア



エジプト

「99%対1%運動」(反格差運動)の 主要発生地区



2011年の「占拠運動 (Occupy Movement)」(反格差運動)



出所: 小松啓一郎(ワシントンDC、2011年11月10日撮影)

格差拡大を背景とした 「反既存秩序」の動き

- スコットランド住民投票、コービン現象（英労働党党首）、Brexit、サンダース現象、トランプ現象、マクロン当選、英保守党の過半数割れ等にも共通する特徴
- 過去の経験知が通用しない、予測不可能な時代に

「国境は不変」という固定概念も
覆される時代が到来？

英国の独立派主要政党名



スコットランド・ゲール語:

Pàrtaidh Nàiseanta na h-Alba

スコットランド語:

Scots National Pairtie

英語名: Scottish National Party (SNP)

ウェールズ語 *Plaid Cymru*

英語名: The Party of Wales

アイルランド語: *Sinn Féin*

(意味: ourselves)

コーンウォール語: *Mebyon Kernow*

英語名: The Party for Cornwall (自治要求)

コーンウォール語: *Party Kenethlegek Kernow*

英語名: Cornish Nationalist Party (CNP)

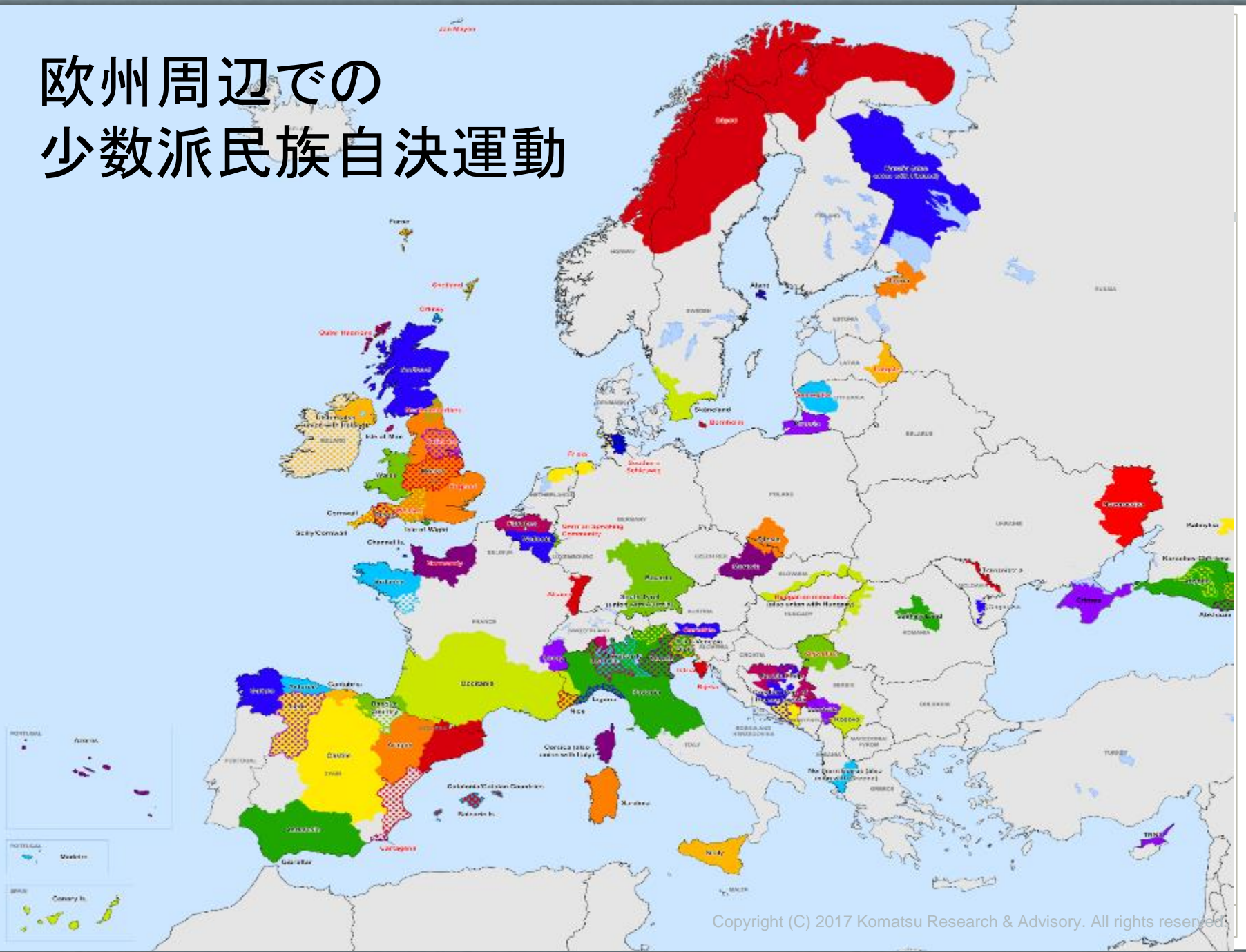
(完全独立要求→自治要求)

マンクス語: *Mec Vannin* (完全独立要求)

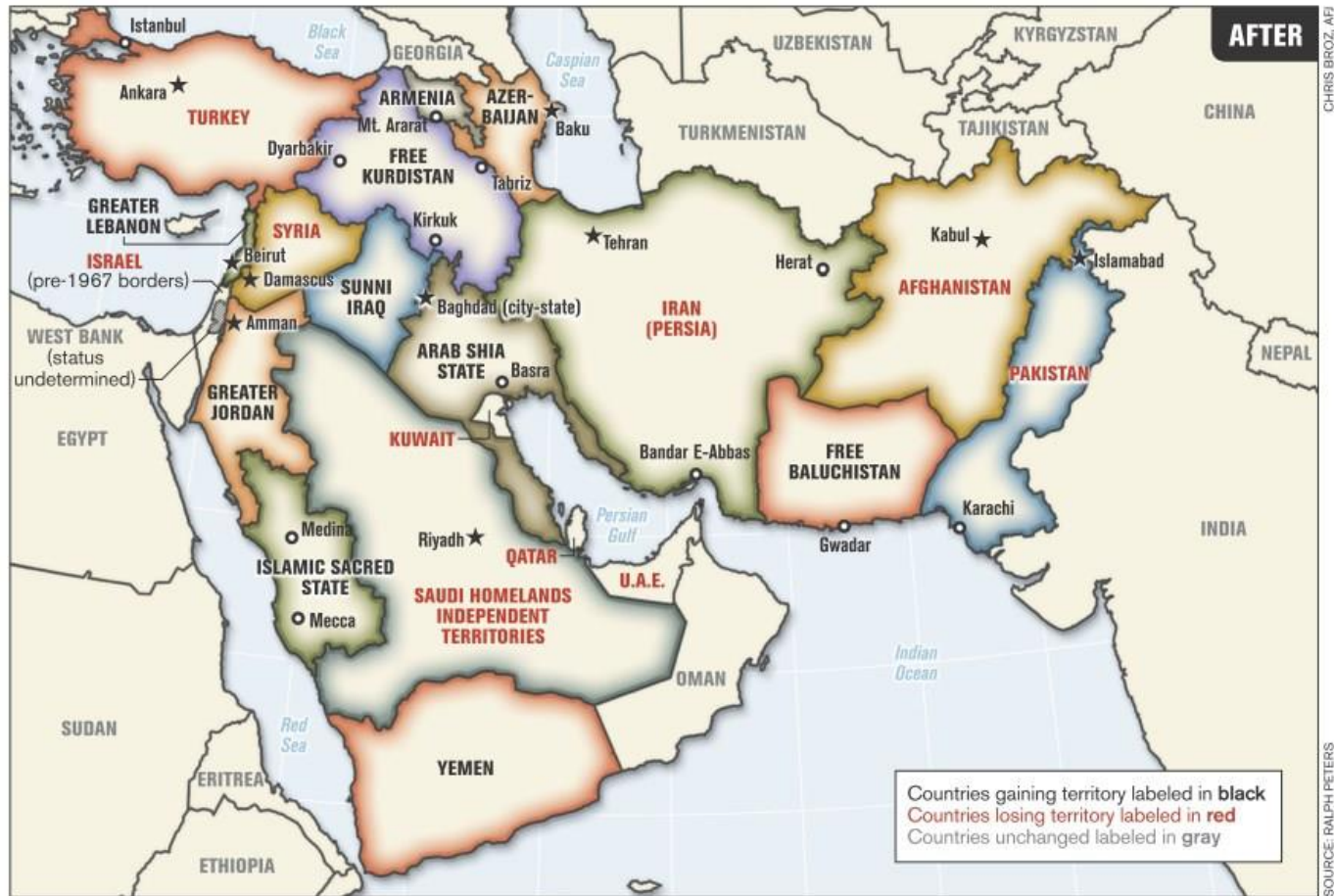
(意味: Sons of Mann)

マンクス語: *Liberal Vannin Party* (自治要求)

欧州周辺での 少数派民族自決運動

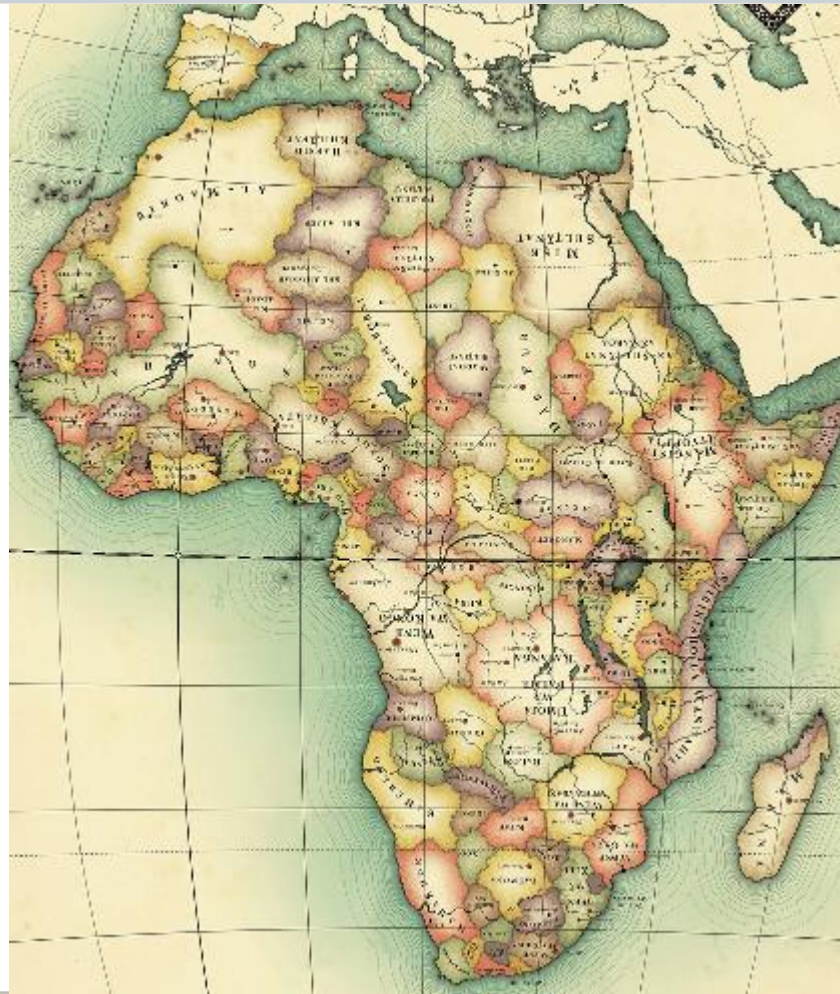


中東の国境変更へ？



1844年当時のアフリカ

もしもアフリカが植民地化されなかったら…



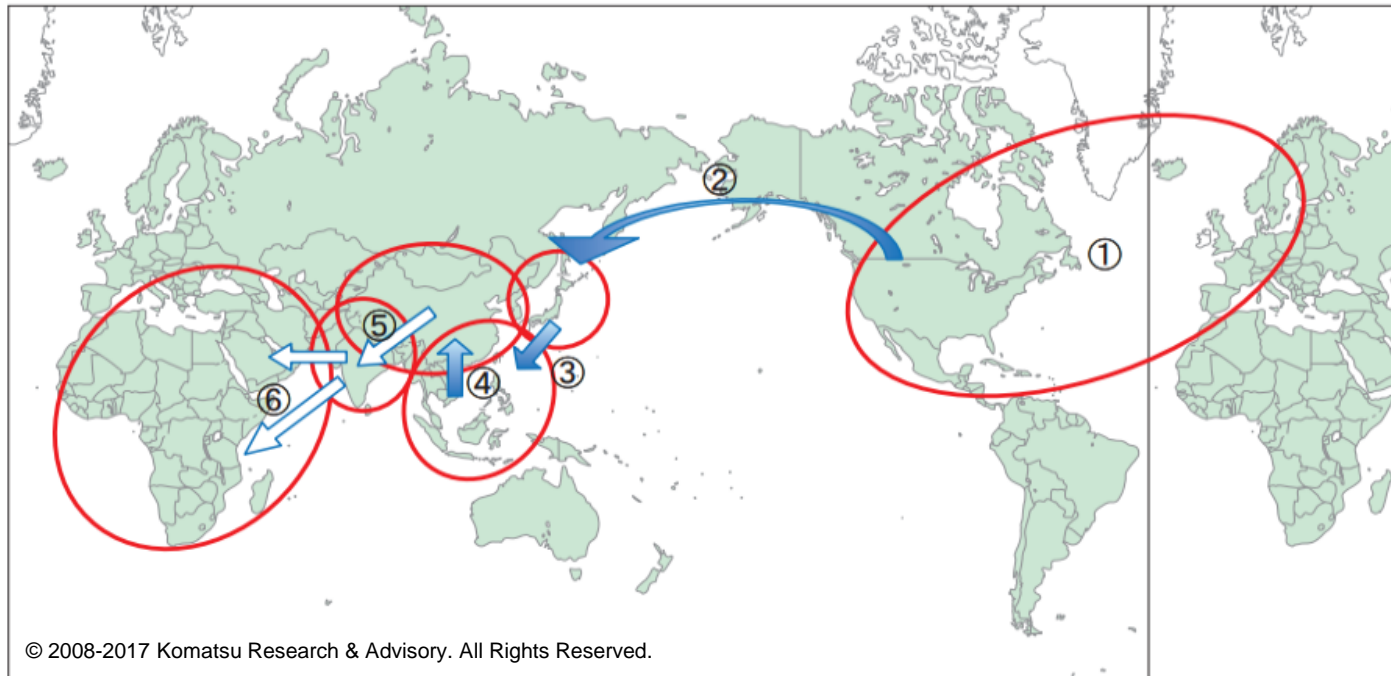
ニューノーマルの時代への対応

価値観の転換⇒新アイデアの創出が急務



産業構造から見た危機と機会

世界経済の成長の中心が移動 (数世紀単位)



- ①19世紀後半から1960年代: 欧米のヘゲモニー
- ②1960年代から1980年代: 日本の高度成長
- ③1980年代後半から1990年代: 東南アジアの急成長
- ④2000年代以降: 中国の拡大
- ⑤2010年代後半以降?: インドが中国を凌ぐ成長センターに発展
- ⑥2010年代後半以降?: 中央・西アジア、中東、アフリカの発展

大西洋の時代



太平洋の時代

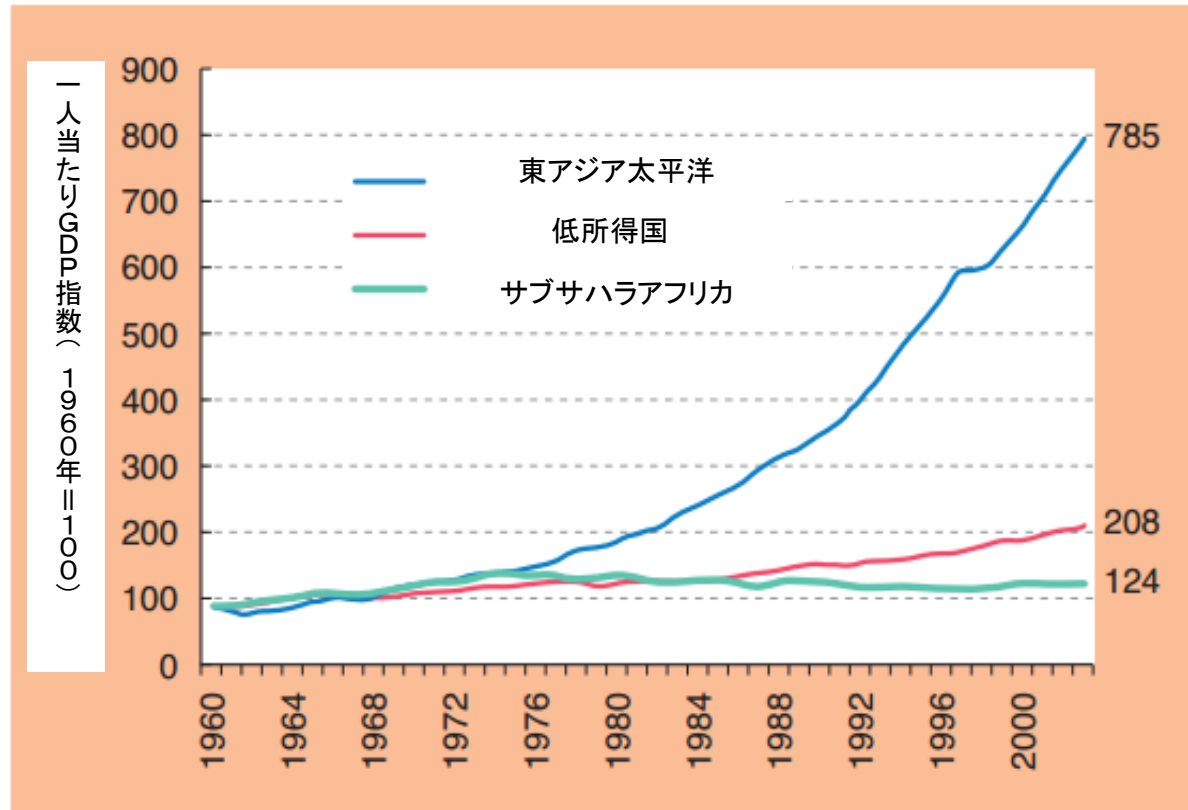


インド洋の時代?

東南アジアが、いきなりアフリカを引き離した

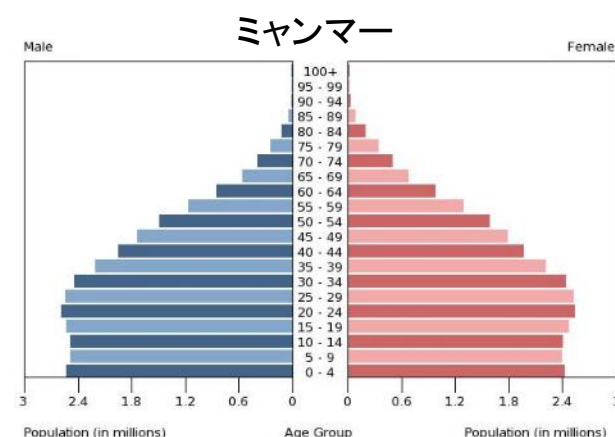
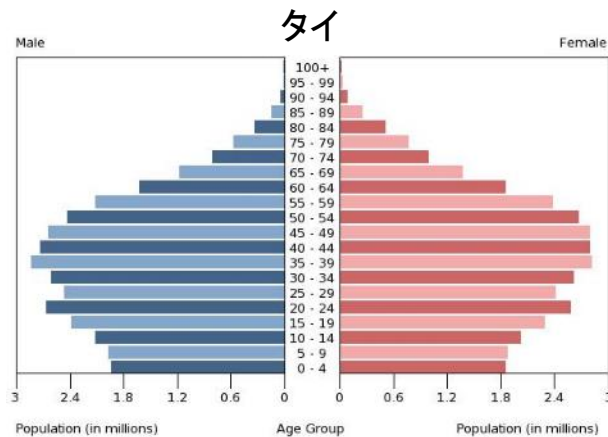
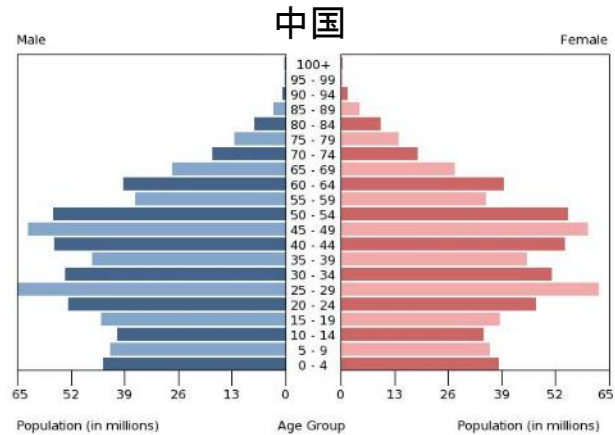
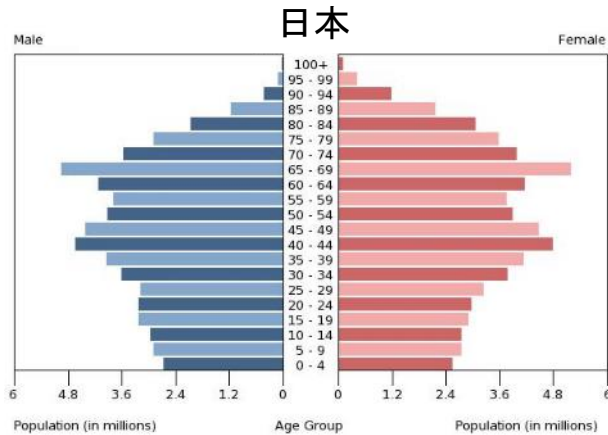
各地域の1人当たりの所得に基づく経済成長の経緯

一人当たりGDP指数（1960年=100）

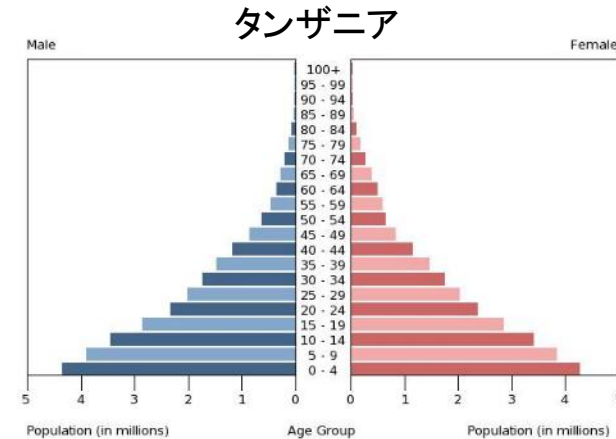
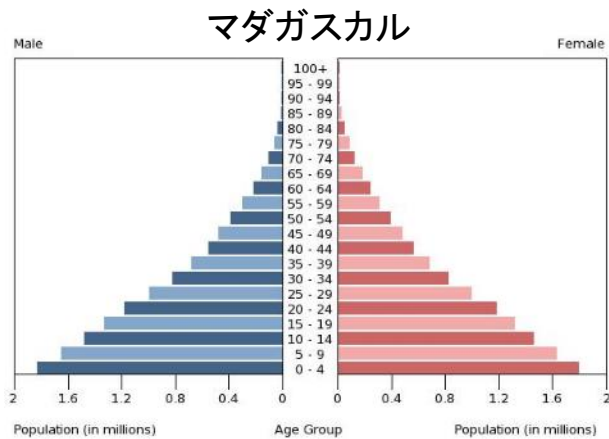
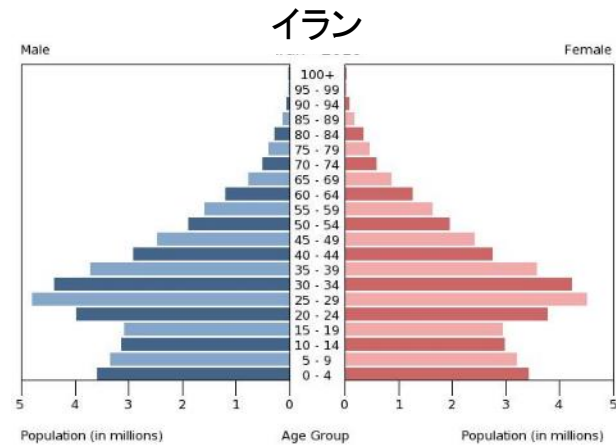
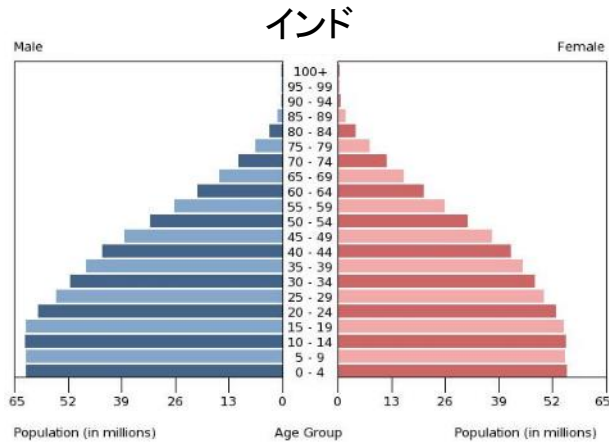


出所: Benno Ndulu et al, Challenges of African Growth: opportunities, constraints and strategic directions, The World Bank, 2007 (日本語訳:KRA)

人口構成に見る潜在成長力

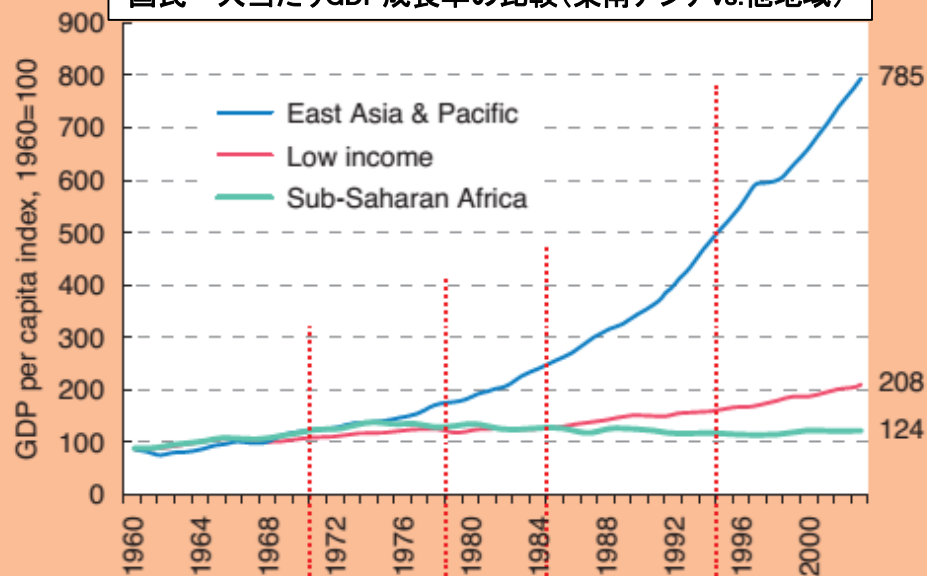


人口構成に見る潜在成長力

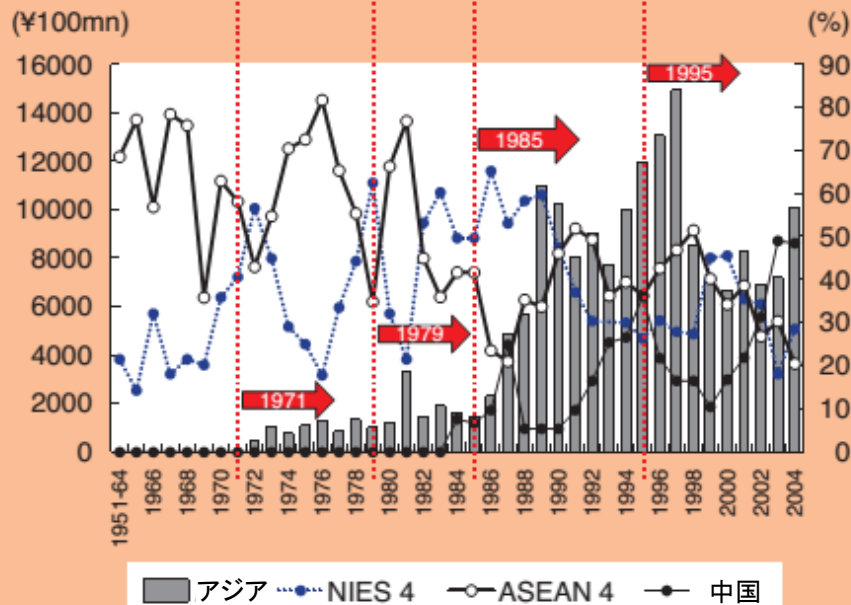


いきなりアフリカを引き離した東南アジアの一人当たり経済成長率と日本から東南アジアへの大規模投資(四波)のペースが一致

国民一人当たりGDP成長率の比較(東南アジアvs.他地域)



日本から東南アジアに向かう4波(赤矢印)の大規模投資

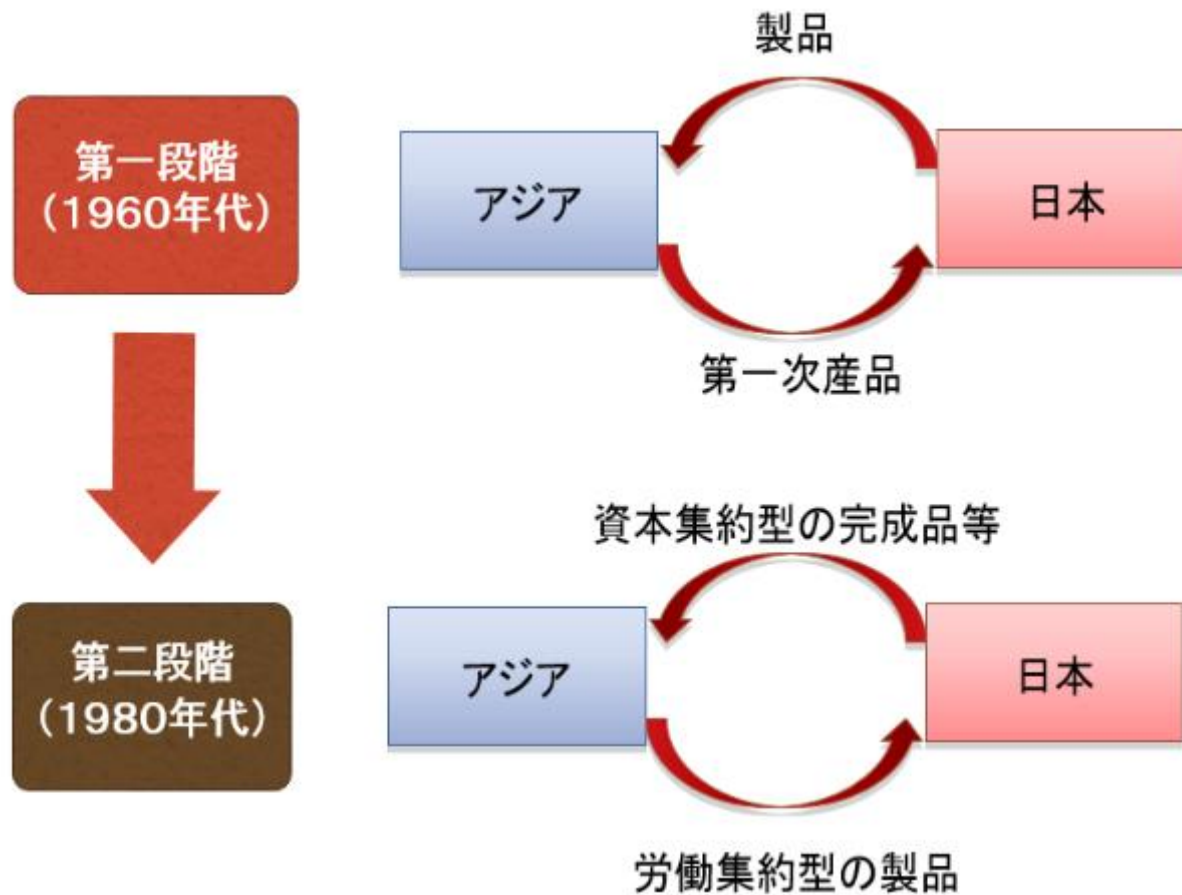


出所: 以下の二つグラフを KRAが加工して作成

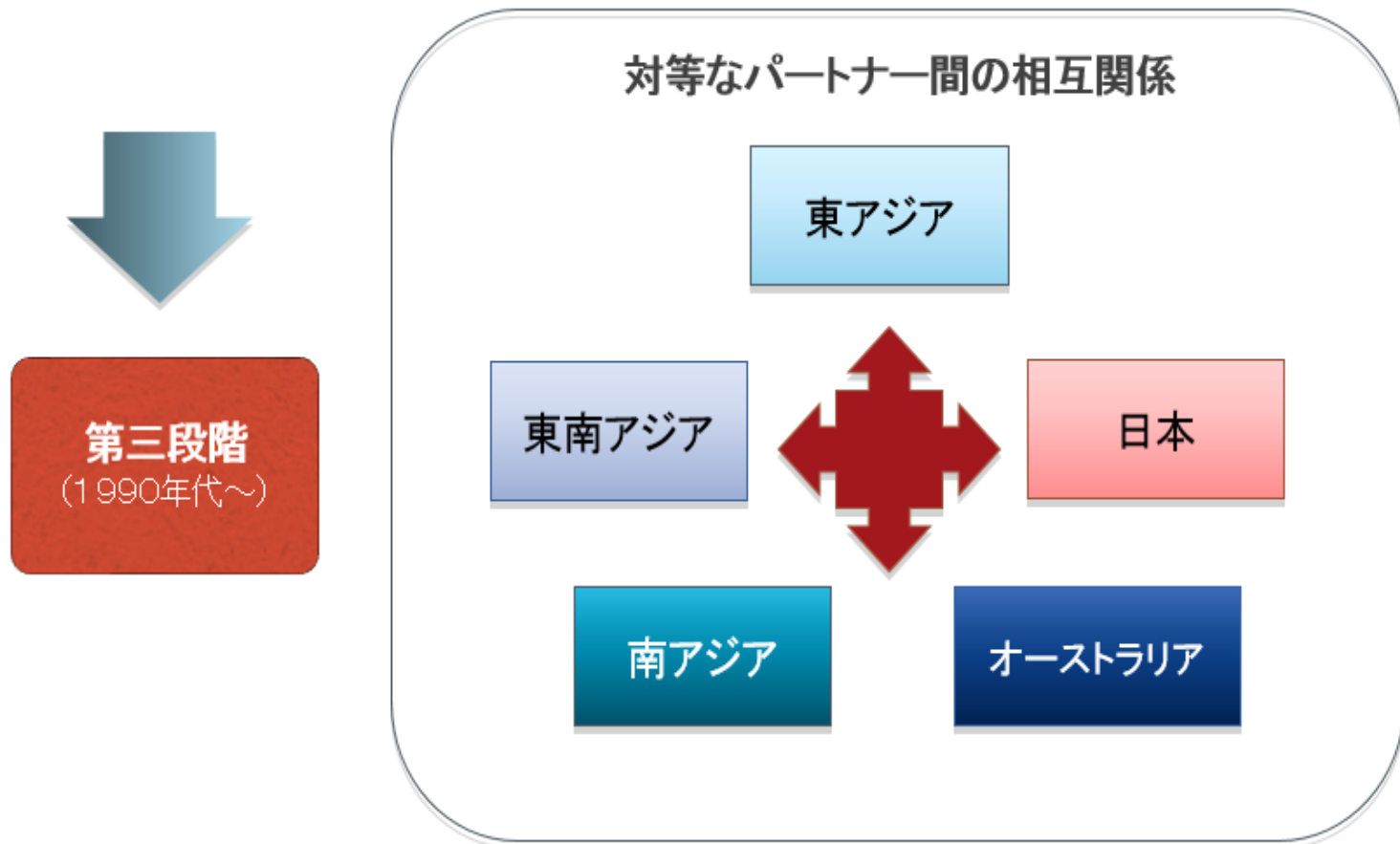
(上) Benno Ndulu et al, Challenges of African Growth: opportunities, constraints and strategic directions, The World Bank, 2007

(下) 池本 賢悟、「東アジア地域の持続的成長に向けての一考察: 直接投資を中心に」、IIPS Policy Paper 316J、財団法人世界平和研究所 平和研レポート、2006年2月

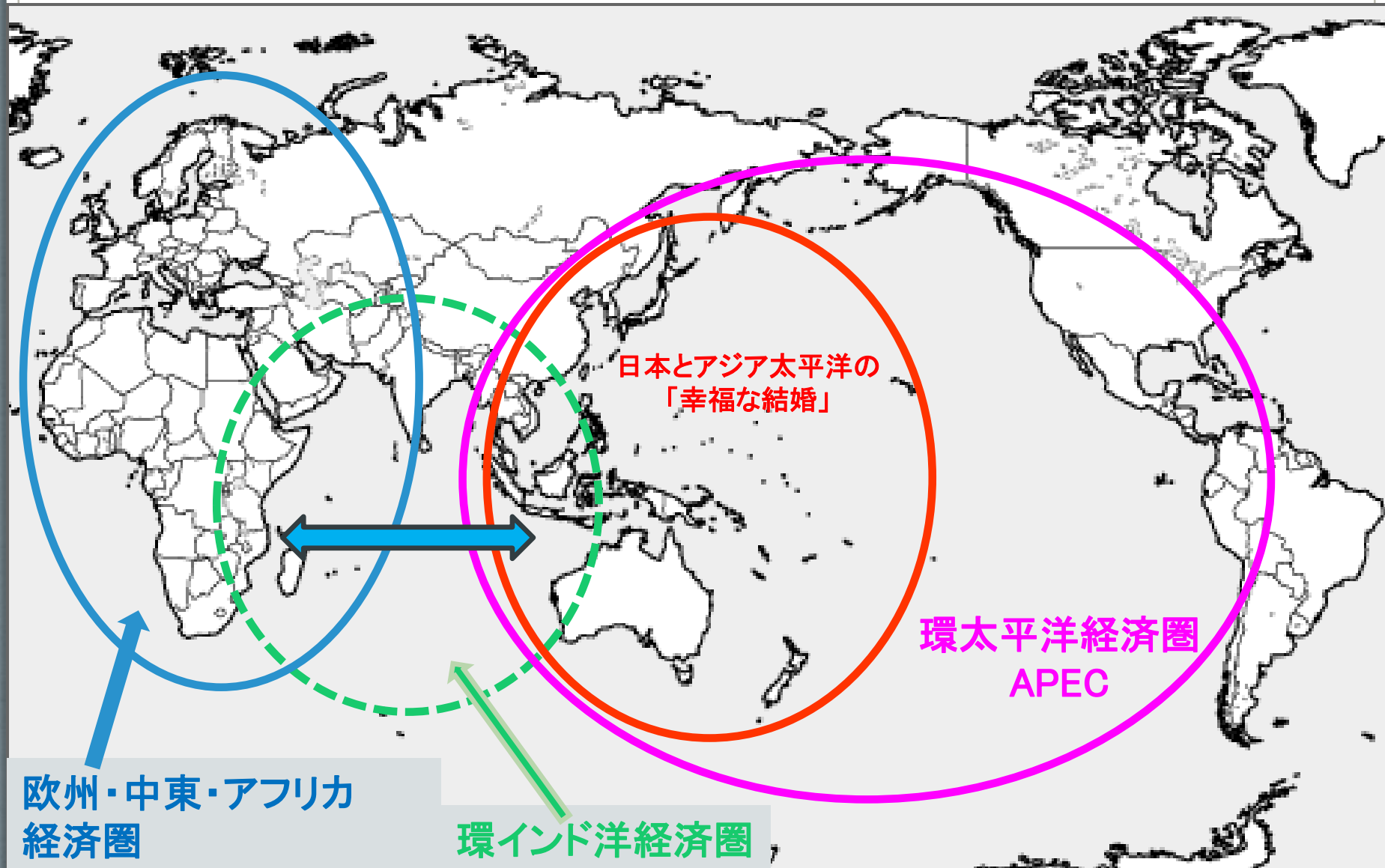
日本産業界の東南アジアへの進出 (第一・第二段階)



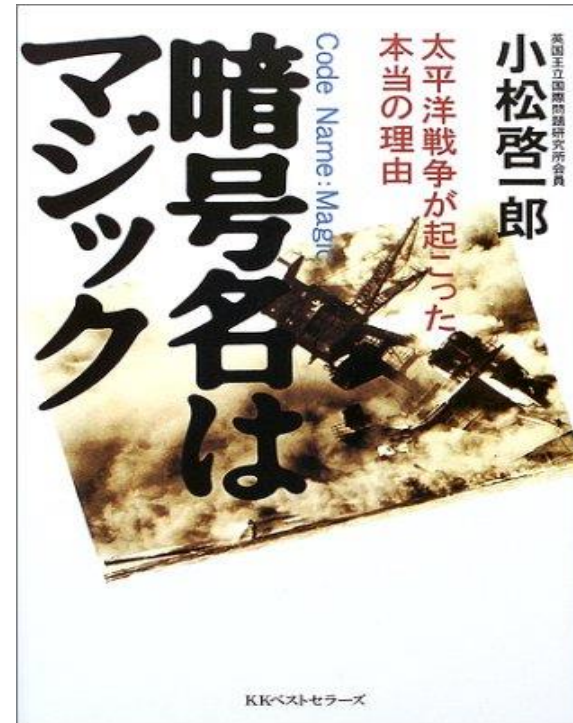
日本産業界の東南アジアへの進出 (第三段階)



新しいビジネス・チャンスの始まりか？ アジア太平洋圏と中東アフリカを繋ぐ環インド洋経済圏 の構築



Food for thought



入手方法のお問い合わせ: KRA事務局 (info@komatsuresearch.com)

THANK YOU !



ホームページ : www.komatsuresearch.com

お問い合わせ : info@komatsuresearch.com